

あけましておめでとうございます。

新しい年が始まりましたね。今年も皆さんの本との出会いに少しでも貢献できるように頑張りますのでよろしくお願い致します。

今年第一回目は干支にちなんでねずみの本です。

『くらやみ城の冒険』（ミス・ピアンカ シリーズ 1）

マージェリー・シャープ 作 渡辺 茂男 訳 ガース・ウリアムズ 絵
岩波書店 読物

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年☆☆★ 小中学年★★☆ 小高学年★★★ 中学生★★☆
高校☆☆☆ 一般☆☆☆

（★が多い年齢の子どもにお勧めです。）

<本の紹介>

この本の主人公は3匹のねずみ。彼らは囚人を救うためにその恐ろしさを轟かせていた暗闇城へと向かったのです。その3匹とはまずは白ネズミのミス・ピアンカ。大使のぼうやに飼われて大使館に住んでいます。黒いネズミは大使館の料理部屋に住むバーナード。帽子をかぶったネズミはノルウェーネズミのニルスです。3匹がなぜ冒険の旅に出たかを話すためには、まず、囚人友の会のことからお話ししなければなりません。皆さんは囚人友の会は知っていますか？ネズミたちが囚人を慰めるために作っている会です。この会で、議長が提案した議題はくらやみ城から一人の囚人を救い出すというものでした。くらやみ城というのは激しい流れの川のがけっぴちにそそりたった城でそこには地価牢がありました。そこに一人の詩人が囚人としてとらわれているというのです。でも、くらやみ城はその場所柄と恐ろしいネコがいるという理由でネズミたちに恐れられていました。さらに今回救い出そうとする囚人はノルウェー人なので、ノルウェーから言葉のわかるネズミをまず連れてこなければなりません。でも、ネズミがどうやってノルウェーまで行けばいいのでしょうか？

議長ネズミの提案は飛行機でした。でも、どのネズミが飛行機に乗れるというのでしょうか？実は1匹だけいるのです。議長ネズミが指名したのは、大使館に住んでいるミス・ピアンカでした。ミス・ピアンカは大使館のせともの塔に住んでいる美しいネズミで、誰もあつたことはありません。大使は今度ノルウェーに転勤になるので、ミス・ピアンカもきっと大使と一緒に飛行機でノルウェーまで行くだらうというのが、議長ネズミの話でした。では、誰がミス・ピアンカにこのことを頼みに行くのか？選ばれたのが大使館の料理部屋に住んでいるバーナードです。バーナードは初めて料理部屋から上の大使のぼうやの部屋まで行ってみました。そこで、バーナードは初めてミス・ピアンカに会いますが、その美しさに目を奪われます。

こんなに美しいネズミが囚人を助けるためのノルウェーネズミを探すという任務をひ

きうけてくれるでしょうか？けれども、ミス・ピアンカは実はネコをも恐れぬ勇敢なネズミでした。バーナードの頼みを聞いたミス・ピアンカは初めは驚いて失神してしまいますが、囚人が詩人だと聞くと、意を決してこの任務を引き受けます。なぜなら、ミス・ピアンカも詩を書いたからです

ミス・ピアンカは大使のぼうやと一緒に飛行機に乗せられ無事ノルウェーに着きました。そこで船乗りネズミたちと知り合います。その中の1匹、ニルスがくらのやみ城に行くという恐ろしい任務をひきうけてくれることになりました。ここでミス・ピアンカの仕事は終わり…のはずでした。けれども、その時、ミス・ピアンカはバーナードのことを思い出しました。そして、ニルスをつれて自分もイギリスへ行くことにしたのです。

イギリスへの旅はそれは大変なものでした。けれども、それはその後の冒険に比べればたいしたことはなかったのかもしれない。イギリスへニルスが無事連れて行ったミス・ピアンカは今度はバーナードとニルスと一緒にくらのやみ城へ行くことと志願してしまっただけです。くらのやみ城へ行くだけでもそれは大変な旅だったのですが、くらのやみ城で待っていたのは、噂の大ネコマメルークでした。けれども、ここでミス・ピアンカはまた勇敢さを見せます。船乗りのニルスやバーナードよりも先にこのマメルークに近づき、くらのやみ城の情報を聞き出したのです。1匹のネズミがどんなふうに大ネコから情報を聞き出したのか？3匹は無事詩人を助け出すことができるのでしょうか？

この本はシリーズになっています。面白かった人はぜひ続きも読んでみてください。

<子どもに手渡すときのポイント>

この本を以前小学校5年生にブックトークで紹介した時のことですが、みんなとても気に入ってくれて、後日そのうちの一人の子の保護者の方に伺った話によれば「自分が読んだ本の中で一番おもしろい！」と話してくれていたそうです。

まだ、読んだことのない方はぜひご一読を！

今回はその時のブックトークの原稿を元に紹介文を書きました。子どもたちに紹介される際の参考にしていただければ幸いです。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

早良図書館 吉岡 さやか